

東京・ふるさとショップ探訪

〔第7回〕

薩摩ワールドが3フロアに展開 開業23年目で来館者1000万人

本場の芋焼酎、黒糖焼酎がずらり! 試飲会も

✦ 文 山田 稔 Text by Minoru Yamada ✦



かごしま遊楽館

東京都千代田区有楽町1-6-4 千代田ビル1~3F
<https://www.pref.kagoshima.jp/yurakukan/>

今年一年、NHK大河ドラマ「西郷どん」で注目を浴び続けた鹿児島県。そのアンテナショップ「かごしま遊楽館」は、3月にオープンした「ミッドタウン日比谷」や「日比谷シャンテ」の近くにある。開業は平成7年5月30日。昨年10月30日、開業23年目で来館者が1000万人に到達した。日比谷の地で「薩摩ワールド」の魅力を発信し続けてきた成果だ。

ショップは1階が食品販売の「さつまいもの館」、2階がレストラン、3階が工芸品展示・販売「鹿児島ブランドショップ」と3フロアで構成されている。1階には鹿児島の名産品が80

0アイテム勢ぞろい。さつま揚げ、黒豚、黒牛、かごしま茶、黒酢、かるかん饅頭、安納芋etc…。忘れてはいけないのが本場の芋焼酎や黒糖焼酎。「西郷どん」「鉄砲伝来」「伊佐舞」といった鹿児島限定焼酎も並ぶ。アンテナショップならではの品揃えだ。

「冬場は鍋シーズンですので、しゃぶしゃぶ用の黒豚が人気ですね。和牛日本一に輝いた鹿児島黒牛もぜひ味わってみてください」（さつまいもの館主任の久保清久さん）

3階の工芸品ショップも充実している。400年の歴史を誇る薩摩焼をはじめ、大島紬、薩摩切子、薩摩錫器、屋久杉工芸品etc…。すばらしい作品の数々に目を奪われる。まるで美術館にいるかのようだ。

「薩摩切子は贈答品として買われるお客様が多いですね。最近、注目を集めているのは薩摩切子の工程上での出る硝子廃材を活用したeCoKIRIという商品です。ペンダントやゴルフマーカーなどの小物で5000円前後でお求めいただけます」（鹿児島ブランドショップ店長の木口雄史さん）



profile

1960年生まれ長野県出身。日刊ゲンダイ経済編集部長、広告局次長を経て独立。編集工房レーヴ代表。著書に「酒と温泉を楽しむ「B級」山歩き」（光文社知恵の森文庫）、「分煙社会のススメ。」（光文社）など。「美楽」創刊時に山歩きエッセイを連載。

約40万年前に堆積した地層から採取した火山白土（火山灰）を配合した火山洗顔料も陳列されている。女性には気になる商品だろう。

新たな商業施設の誕生や大河ドラマの影響もあり、今年の来館者は前年比120%と好調だ。日比谷での観劇やショッピングのあとにぶらり立ち寄り寄ってみてはいかが。